

## 労働需要の理論

労働の価格である賃金率が上昇すると、労働需要量は減少する。

### I. 利潤を最大化する雇用量

#### A. 利潤最大化条件

##### 1. 名目賃金率

$$\text{賃金率} = \text{生産物価格} \times \text{労働の限界生産力}$$

$$\text{賃金率} = \text{労働の価値限界生産力 (value marginal productivity)}$$

##### 2. 実質賃金率

$$\frac{\text{賃金率}}{\text{生産物価格}} = \text{労働の限界生産力}$$

$$\text{実質賃金率} = \text{労働の限界生産力}$$

#### B. 大切な前提：労働の限界生産力逓減

### II. 賃金率上昇の影響

#### A. 限界費用曲線による説明

賃金率の上昇 → MC 曲線の上方への移動

→ 利潤を最大にする生産量の減少 → 労働需要量の減少

#### B. 限界生産力曲線による説明

賃金率の上昇 → 実質賃金率の上昇

→ 労働の限界生産力を高める雇用調整 → 労働需要量の減少

## 参考文献

教科書・第 6 章，98-99 ページ。

## 参 考

生産物価格が  $p$  , 名目賃金率が  $w$  のときの利潤を最大化する供給量を  $y$  , 労働雇用量を  $x$  とし , 生産物価格が  $p'$  , 名目賃金率が  $w'$  のときの利潤を最大化する供給量を  $y'$  , 労働雇用量を  $x'$  とすると ,

$$p'y' - w'x' \geq p'y - w'x$$

$$py' - wx' \leq py - wx$$

したがって

$$(p' - p)y' - (w' - w)x' \geq (p' - p)y - (w' - w)x$$

これを書きなおすと

$$(p' - p)(y' - y) - (w' - w)(x' - x) \geq 0$$

ここから次の結論が得られる .

1.  $w' = w$  のとき :  $(p' - p)(y' - y) \geq 0$
2.  $p' = p$  のとき :  $(w' - w)(x' - x) \leq 0$

## 参考文献

Varian, Hal R. (2005) *Intermediate Microeconomics* : A Modern Approach. Seventh edition. New York, New York: Norton. (佐藤隆三監訳 『入門ミクロ経済学』東京 : 勁草書房, 2007) 第 19 章 , 第 11 節 .